

# KEIWA COLLEGE REPORT

第 52 号

October 2007

敬和カレッジ・レポート

発行/敬和学園大学後援会  
敬和学園大学広報委員会



念願の人工芝テニスコートが完成!

## CLOSE UP

### 「哲学とキリスト教」 共生社会学科 矢嶋直規

日本語・日本文化研修プログラム「海外留学生との4週間」

学生紹介「舞台とわたし」/社会福祉士国家試験にむけた合宿

一足先に職場体験「インターンシップ」/敬和祭のご案内

人工芝テニスコートができました/ホームページが新しくなります

オープン・カレッジ、オープンキャンパスのご案内/新CMが完成!

# 2007

KEIWA COLLEGE REPORT

October 2007

発行所/敬和学園大学 〒957-8585 新潟市中央区南出島1-19-1 TEL.025-283-2151  
印刷所/オンライン印刷所 〒950-0963 新潟市中央区南出島1-19-1 TEL.025-283-2151

## KEIWA チャレンジ学生ファイル①9



国際文化学科4年

加藤 恵子

「学ぶということ」

私は社会人学生です。私がこの敬和学園大学に入学した動機は、当たり前ではありますが「学ぶ」ためです。あまりにも仕事以外のことを知らない自分の無知さに、あきれていたからなのです。

敬和に入学して今年で四年目になりますが、学ぶということは、年齢にまったく関係ないということを強く感じています。やる気さえあれば、敬和の先生、そして職員の方々は、私たち学生を全面的に受け入れてくれます。自分は、こうして支援されているからこそ、学び続けることができるのだとつくづく思います。

「知らなかったことがわかる」という喜びは、仕事をしていた時とは違った、新鮮で何にも代えがたい、より深い感動を与えてくれました。今は、すぐに役に立つことや利益につながることを追い求める風潮もありますが、「真理を知る」という学ぶ姿勢は、いかに人生を豊かにしてくれるかということを知りました。

建学の理念である「リベラルアーツ教育」に基づいて、“自分を知る。世界を知る。”ことを実践している敬和学園大学だからこそ、自分が高められ、変わっていくことができるのだと思います。

信じられないけれど、この年で毎日若い人たちと一緒に学んでいます。そしてここに来なければ出逢えなかった先生・友人は、かけがえのない宝物です。そういったすべての人と敬和に感謝しています。



敬和学園大学 の最新情報

キャンパス日誌

検索

[www.keiwa-c.ac.jp/nisshi/](http://www.keiwa-c.ac.jp/nisshi/)



ケータイ付



# 哲学とキリスト教

共生社会学科 矢嶋 直規

## ●哲学の魅力

《人は生涯に数多くの道を究めることはできない。それは生涯の時間が短いからではなくて、個人が出会う現実の課題が、その人に、唯一つの道だけを深く突き進むより強いからだ》四十代台半ば人生の折り返し地点を過ぎる年齢となり、高校時代に読んだある本の一節に実感が伴ってきました。高校時代から哲学や思想の研究に憧れ、それを生業とすることができたらどんなに幸いだらうと考えていました。多くの挫折を経験しましたが、今から十一年前、イギリス留学を終え、敬和学園大学に哲学・倫理学の教師として赴任することができ、曲がりなりにもその夢を実現することができ



敬和学園大学の教職課程では、2年生の夏休みに、新潟県妙高市へ2泊3日の宿泊研修に出かけます。今年も教師を目指す学生23名が、この研修に参加しました。学生たちは、キャンプや屋外炊事などの体験とおして、教師に求められる主体性と協調性、そしてリーダーシップなどを養っていきます。大自然の中での活動によって、学生も教職員も自分に素直になることができ、普段の生活では味わえない一体感を持つことができました。この研修のすべての計画は、学生たちが話し合い、準備をすすめてきたものであり、毎年、この研修後には、学生たちは見違えるほど連帯感、教職への意識が高まり、その先にある教育実習や教員採用検査にすすんでいきます。(教職課程委員会)

ました。毎年小人数かもしれませんが、私の講義に深い関心を持ってくれる学生諸君に出会うことができ、そのことをとても幸いに感じています。哲学は、世界が存在することの意味や人生を生きる目的という、極めて根本的な問題に正面から取り組む学問です。これらの問題に理論的に答える道筋をつけ、そしてそれを講義や学会発表、論文などを通して他者に伝え、分かち合うことが、哲学者としての純粋な喜びです。学問はすべて、最も普遍的な人類の共同作業として営まれるものです。文明が始まって以来、これまで蓄積されてきたすべての文化遺産が学問の世界の共有財産です。哲学という、どこかに一人で閉じこもって現実離れたことを瞑想するというようなイメージをもたれる方がありますが、本当の哲学は決してそのような学問ではありません。哲学は極めて現実的で具体的な課題とかかわって発展する学問です。哲学の根本的課題はソクラテスが定式化した「善く生きることは何か」にこたえることで、その営みが私たちの現実とかかわらないことはありません。西洋哲学の二千年の歴史、およそ十数人の傑出した天才哲学者が現れました。平均すると百年から二百年に一人というこ

とになります。その十数人とは誰を指すかと問われれば、研究者によって多少のばらつきがでることでしょう。しかし、どのように数えても、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの三人を外すことはできません。そしてこの三人が同時代の人で直接の師弟関係にあったのは驚くべきことです。このことは文化創造の営みの本質を教育が担うことを示しています。ソクラテスの弟子のプラトンは、西洋の教育制度の基礎となった最初の学校アカデミアを創立し、アリストテレスはそこで学びました。アリストテレスもまた、リュケイオンという学校を設立しました。そこでの教育内容の根底に据えられたのが哲学であり、それが教養教育です。敬和学園大学はその正統派の末裔に位置する大学です。

## ●ヒューム

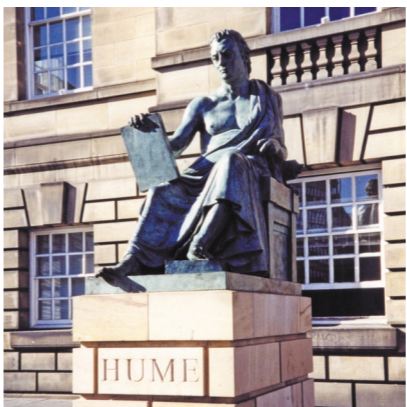
さて哲学研究にも様々なスタイルがありますが、歴史に名を残した大哲学者の理論を専門的に研究し、その哲学者の立場に立つて、あるいはその哲学者への批判を通して様々な問題を考えるのが一般的です。私自身の専門は、トマス・ホブズ、ジョン・ロックとともに、英語で書いた最大の哲学者といわれるデーヴィッド・ヒューム(一七一〇—一七七六)の哲学です。ヒュームは十八世紀スコットランドの哲学者ですが、幸いなことに、私はヒューム研究のメッカといわれ、ヒューム自身が学んだエディンバラ大学に留学することができました。ヒュームが在籍したのは、一五八二年に創設されたエディンバラ大学が創立百

## もくじ

CLOSE UP「哲学とキリスト教」	1	夏休みの思い出キッズ・カレッジのご報告	10
JCLP 海外からの留学生との4週間	4	クリスマス・チャリティ講演会のご案内	10
学生紹介「舞台とわたし」	6	ホームページが新しくなります	10
社会福祉士国家試験にむけた夏合宿	7	オープンキャンパスのご案内	11
人工芝テニスコートができました	7	新しいテレビCMができました	11
一足先に職場体験 インターンシップ	8	同窓会リレー・エッセイ 和泉 睦	12
3年生保護者との懇談会のご報告	8	寄付者ご芳名	12
第17回 敬和祭のご案内	9	学事予告	12
1・2年生保護者との懇談会のご案内	9	キャンパス日誌	13

<表紙写真>「人工芝テニスコート完成！」  
天候に左右されずにテニスを楽しめる環境が整いました (p.7)

四十年を迎えたころでした。私は二〇〇五年に博士号をいただいたので、ヒュームの二百八十年ばかり後輩の同窓生ということになります。エディンバラ大学は近代ヨーロッパの医学研究をリードした大学としても有名で、明治初期、新潟で最初にキリスト教伝道を行ったセオバンド・エイドリアン・パームもエディンバラ大学医学部出身でした。敬和学園大学の体育館は「パーム館」と名付けられ、入り口にはパーム一家の写真が飾ってあります。ちなみに、ゴードン・ブラウン英国首相も飛び級により十六歳でエディンバラ大学に進学し、政治運動のかたわら三十一歳で博士号を取得したずば抜けた秀才です。



エディンバラ市内にあるヒューム像

さて、ヒュームを少し紹介しましょう。

彼はスコットランドがイングランドに併合された四年後にスコットランドの名門の家庭に生まれましたが、幼くして父を亡くしました。法律家になって欲しいという家族の願いに背き、早くから古典や哲学に打ち込みます。次男であったため、将来文筆で

身を起そうと考えていたようです。十代の終わりころ、哲学上の画期的な発想を得たといわれます。そして二十九歳から三十歳にかけて、主著『人間的自然論』を出版します。ヒュームの早熟さを言い表すのに、どのような驚嘆の形容を用いても十分ではありません。この本は近代哲学最大の著作の一つと目されていますが、当時ほとんど理解されず、逆にヒュームが大学教授になる最大の妨げとなりました。再版されたのは死後数十年たってからで、その真価が一般に認められるのは、ようやく二十世紀も半ばを過ぎてからです。

ヒュームは処女作を早く出版しすぎたことを悔やみますが、それに拘泥することなく、一般の読書人にも理解できる著作を発表します。浩瀚な『イングランド史』を著し、それは長い間イギリスの大学の標準的な歴史教科書として読まれました。また当時萌芽期にあった経済学や政治学の論文により、時代のオピニオンリーダーとして活躍し、ヨーロッパ最高の文化人としての名声をほしいままにしました。アダム・スミスの親友であったほか、ルソーとの交友もありました（ルソーとの関係はルソーの病的気質のため破綻し、スキヤンダルとなりました）。ヒュームやアダム・スミスはスコットランド啓蒙思想の哲学者ですが、彼らの理論は身分制に基づく封建制度が崩壊し、商業を中心とする社会が現れつつある時代状況において、いかにして自由で平等な秩序ある社会を実現するかという課題にこたえようとするものだったのです。

### ●信念と信仰

ヒュームはいまでも一般に無神論者とみなされています。ヒュームが因果論を批判し、当時の熱狂的・狂信的な宗教運動を厳しく批判したのは事実です。私はクリスチアンとして、ヒュームをはじめとする近代哲学がキリスト教とどのようにかわるのかに深い関心を抱いてきました。そして一般に反キリスト教的といわれている近代哲学が根底において、実は極めてキリスト教的であることに気づくようになったのです。

ヒュームの理論の中心は「信念」という概念です。人間は習慣の動物といわれますが、私たちは毎日の生活において極めて重大な仕方、習慣に依存しながら生きています。例えば、朝起きて洗面を済ませ食事をして学校や職場に向かうまで、私たちが一体幾つの動作を行うのかを考えてみましよう。数え切れないほどの動作をスムーズに連続させています。これは考えてみれば驚異的な行動なのです。私たちは一つの動作を行うことにその動作の結果を想定しますが、それが正しいという保証は理性



エディンバラの街並み



ゼミの学生たちと遠足（右端が矢嶋先生）

からは得られないものだからです。ヒュームは懐疑論によってこのことが驚くべきことであることに気づかせようとしています。私たちは誰も、朝は東から太陽が昇り、蛇口をひねれば水が出て、食事を取れば元気が出るということを疑いません。これまでいつもそうだったという以外に何の保証もないにもかかわらず、です。

さて、ここからが肝心です。私たちは世界についての信念に基づいて日常生活を送っています。そしてそのことは道徳にも当てはまるのだというのが、ヒュームの主張です。簡単に言えば、私たちが道徳的に生きることは、誰もが当たり前のように他人に対して期待している信念に従って生きることだということです。私たちは家を出るとき、自分が家から出たら、誰かが押し入って自分の財産を奪い取ってしまうかもしれない

れないと考えれば、安心して外に出ることはできません。銀行に預けたお金はいつでも返してもらえないものと信じなければ、銀行に預金することもできません。また政治家に選ばれた人が、国民のために権力を用いると信じなければ、私たちは投票する意欲も起こらないでしょう。国民全体に奉仕すべき政治家が、実は裏で不正を働いていたりすることにはもう慣れっこになってしまいました。それでも政治家は国民の奉仕者であるべきだという信念が建前として崩れることはありません。

ところで、人生には私たちが望むような安定した信念を裏切る出来事がしばしば起こることを誰もが知っています。揺らぐことがあり得ないと思っていた大地が突然揺れだして家屋敷をめちゃくちゃにしたり、元氣だった人が突然重病に倒れたり、隣にいる人と助け合って生きるのではなく憎しみあつて傷つけあつたりする現実、耐え難い人生の苦しみです。世界の様々な地域で、いまでも罪のない子ども達が飢え、苦しんでいる現実を目の当たりにするとき、思わず神はいるのかと問いたくなることもあります。

ではそんな私たちが最も切実に必要とする究極の信念とは何でしょうか。それはこの世界が、それにもかかわらず、もつと大きな秩序に支配されているものであり、破壊や憎しみや絶望が、世界の事象を突き動かす究極の原理であってはならないという思いです。この世は不合理で、他人は信じられないと言って終わりにしたくはない。現在の絶望によってではなく、未来への希



### 矢嶋直規教授 プロフィール

#### ●最終学歴

英国エディンバラ大学大学院博士課程修了、Ph. D. (哲学博士)

#### ●研究・演習のテーマ

ヒュームを中心とする近代哲学と環境倫理学を主題としている。

人間が生きているとは、様々な他者と共に生きていくことである。授業では、どうしたら、共に生きることができなのか、学生たちと「共に」考えている。

## 日本語・日本文化研修プログラム 海外からの留学生とすごした四週間

敬和学園大学では、海外からの短期留学生を対象とした、日本語と日本文化を学ぶ短期研修プログラム（JCLP）を実施しています。これは四週間のプログラムで、日本語の授業（三十八時間）に加え、毎週一回行うフィールドトリップ等を通して、日本、新潟の文化を身近に感じてもらえるものとなっています。

今年度は二回実施し、アメリカ・アリゾナ州エンブリ・リッドル航空大学からの十五名をはじめ、スウェーデン、中国などから計二十四名の留学生が参加しました。

日本語の授業は、ひらがなやカタカナ、日本語の表現、日常会話などを中心に行いました。全く日本語を学んだことがない留学生も二週間目には簡単な会話ができるようになりまし。留学生たちの意欲と飲み込みの早さには、本当に驚かされました。

フィールドトリップでは、大学のある新発田の名所や新潟一宮の弥彦神社、白根大風合戦へのツアー、そして近隣の小・中・高校への訪問を行いました。そのほか、茶道、和紙、剣道、生け花、琴・尺八、書道などを体験しました。留学生たちは、実際に自分の手で文化を体験することで、繊細な日本の心を感じたことでしょう。

また、本学学生による、自由に会話を楽しむための会話パートナー制度も好評で、学内は英語と日本語が飛び交い、学生たちの熱気につつまれました。

（国際交流係 田邊）

## JCLPに参加した留学生より

### アンドリュー・エックマン（アメリカ）



敬和学園大学 JCLP における日本語の授業は、月曜から木曜まで、午前中（一部午後）山田先生と大沼先生に教えていただきました。こちらの授業も敬和の学生がボランティアとして参加していたので、私たちの質問に答えてくれたり、分かりやすく説明してくれたりして、私たちの理解に大変助かりました。

最初の日本語の授業は、山田先生のクラスでした。一番最初の授業では、日本語の基本的な発音を勉強しました。また、ひらがな、カタカナ、という、日本語の基本となる文字を学びました。記号の書かれたチャートを使って、まずは、ひらがなを記憶しました。そして、宿題として、カタカナも勉強し始めるように、先生から言われました。

日本語の文字を正しく書くことも学びました。書く時の筆使いもきちんと正しくすることは、日本語を書く上でとても重要なことだと学びました。楽しみながら日本語を勉強することができました。



### 〈一週目〉

キャンパス・オリエンテーション  
ウェルカム・パーティ  
日本語のレッスン  
会話パートナー  
茶道部による茶道の紹介  
立体和紙製作体験  
新発田市内フィールドトリップ  
ホームステイ



### 〈二週目〉

日本語のレッスン  
会話パートナー  
近隣の小・中・高校への訪問  
福島・会津へのSLの旅



### 〈三週目〉

日本語のレッスン  
会話パートナー  
剣道体験  
生け花の紹介  
日本楽器（琴・尺八）の紹介  
白根大風合戦フィールドトリップ  
村上大祭フィールドトリップ  
新潟ふるさと村フィールドトリップ



### 〈四週目〉

日本語のレッスン  
会話パートナー  
書道入門  
弥彦・北方文化博物館フィールドトリップ  
さよならパーティ



### ヘレナ・ラウ（スウェーデン）



初めて外国に留学した私は、最初色々なことに不安を感じていましたが、敬和学園大学の皆さんは私を助けてくれました。問題があった時にそっと言ったら、すぐに誰かが問題を解決してくれました。特に田邊さんは面白くていつも笑っていた人で、何の問題でも相談できる人でした。

JCLPの授業は面白くて楽しかったです。先生たちは優しくいい先生でした。分からないところがあたら詳しく説明してくれました。

学校で一番面白かったものは毎週の修学旅行。ほかのJCLPの学生と一緒に日本の文化と歴史の面白いところへ行ったことは本当に最高でした。ホストファミリーの経験もいい経験でした。日本の家族の生活を体験できてうれしかったです。もちろんアパートの生活も楽しかったです。

敬和学園大学のJCLPは最高です！私はいつまでもこの経験と皆さんの優しさを忘れません。ぜひ後輩に敬和学園大学を勧めます。

## なんとかなった！ホストファミリー



英語文化コミュニケーション学科四年  
岡田 裕美

私は、今回初めて、友達のお勧めでJCLPの会話パートナーとして、日本語の授業などに参加しました。

このJCLPでは、留学生が一泊二日で日本人の家庭にホームステイをする企画があります。私は留学生たちと接するうちに、留学生を受け入れたいと思ったのですが、一方で経験がなかったため、言葉などの問題があるかもしれないという不安もありました。でも、相談した友達「なんとかなる」という一言で、なぜか急に心配が吹き飛び、引き受けることにしました。

最初、私の家族は家に外国人が来ることに驚いていました。家にはアメリカから来たニコルという女の子が来ました。一緒にテレビを見ながら話したり、犬の散歩をしたり、カラオケや博物館に行ったり、たまにたまあつたそば祭りで楽しんだり、日本の何気ない日常生活を通じて、たくさんのおい出をつくることができました。なによりニコルが楽しんでくれたことがとてもうれしかったです。

私も家族もみんな、ホストファミリーになって本当によかったと思いました。友達「なんとかなる」という言葉は当たっていたのです。このような経験を卒業する前にできたことは、私の学生生活の中でのよい思い出になると思います。

## 舞台とわたし

英語文化コミュニケーション学科三年 横山 道子

舞台に出会って約八年、私の生活を一言で表すなら「舞台三昧」が最もふさわしいでしょう。授業の後は必ず稽古、休日は朝から晩まで稽古、たとえ次の日に大事なテストがあると分かっても、足が勝手に稽古場へ向かってしまうのです。なぜここまで舞台に夢中になってしまったのか、少しお話ししたいと思います。

舞台では、何もない空間から、スタッフとキャストが手を結び、多大な時間をかけて一つの作品を創り上げます。私は今、「リユーとびあ能楽堂」の「エイクスピアシリース」に出演しているのですが、まさに能舞台は「何もない空間」なのです。説明的な舞台装置がないため、役者が自分の体と言葉だけで、観客に作品を届けなくてははいけません。ですが、何もないからこそ、観客にイメージを押し付けるのではなく、自由に楽しんでいただけるのです。



「家なき子」での1コマ

私は所作もセリフも、舞台表現者として未熟です。ですが、「イメージする面白さ」だけは、いち早く感じたのです。演劇には答えがありません。作品の解釈、役の演じ方は無限の可能性があります。ですから、百人いれば百通りの表現が生まれるのです。私は毎作品、自分からイメージを生むことの難しさを感じつつ、それが生まれた時の大きな喜びをかみしめます。人は与えられたものを行うだけではなく、その人にしか持っていない「何かを生む力」があると信じています。

私にとって役と向き合うことは、自分と向き合うことでした。自分を知らなければ、自分ではない役のことなど分かりません。この作業は楽しいだけではありませんでした。自分を見れば、嫌な所・コンプレックスが見えてきます。しかし、師匠である演家の栗田芳宏さんは、よくこう言います。

「自分がコンプレックスと思いついてるものは、いつか舞台で大きな個性・魅力になる。」私はこの言葉から、自分を受け止め、好きになれました。他人と比べることよりも、自分をのぼさうと夢中になって生きる方が素敵だと気付いたのです。

稽古場は「大いに恥をかく場」だと言われます。思い切り表現し、失敗し、堂々と恥をかいてもいいのです。そして諦めずに挑戦し続けると、何かをつかむことができます。自分を信じるの

も諦めるのも自分次第です。

私にとって舞台は、「生きること」そのものだと思います。出会い、考え、挑戦し、失敗し、学び、表現し、心が躍る。稽古場と舞台上に立つ時、今自分は生きているのだと強く実感できるのです。

私が好きなことをやれるのは、たくさんのお会いがあったからです。これらの出会い、そして支えがなければ今の私はいないような気がします。これからも大学での学び、先生方や友達との時間を大切にしながら、歩んでいきたいと思っています。これからどんな舞台・人との出会いがあるのか楽しみで仕方ありません。

### 教室と舞台から

透明感のある歌声、力強く響く声、凛とした佇まい。舞台上で見る横山道子さんは、大きく見えます。学業と舞台の両立は厳しいと思いますが、精力的に新湯発の舞台上で活躍しておられます。ゼミでは、彼女の舞台経験を踏まえた意見が、他の学生にとって刺激となっていますし、「リア王」で道化役を演じた後で彼女が書いたレポートは、自分の肉体を通して道化の言葉を発した者のみに書ける考察でした。演じるということは、台詞を暗記することではなく、言葉に役者の感性・イメージを肉付けする作業であることがよく伝わってきました。栗田氏という良き師にめぐり会い、謙虚に学ぶ道子さんの成長が楽しみです。

(英語文化コミュニケーション学科 金山)

## 社会福祉士合格への「誓い」

一月の社会福祉士国家試験にむけた共生社会学科の夏合宿が、九月三日から五日の日程で、自然豊かな県立青少年研修センターにおいて行われました。参加した四年生十六名が自らつくった模擬問題や、教職員作成の模擬試験実施と解説を中心に、参加者すべてが真剣に取り組みました。

その他にも、福祉現場に勤めている先輩たちとの交流会やキャンプファイヤーも行われました。炎の幻想的な雰囲気の中で、それぞれ国家試験合格への願いも含めた「誓いの言葉」があり、改めて合格への決意が学生たちの胸に深く刻まれたことでしょう。後は、合格に向けて突き進むこと、合格の知らせを待つことです。

(共生社会学科 趙)



キャンプファイヤーを囲んでそれぞれの誓い



共生社会学科四年 長谷川 由子

私たち共生社会学科の一期生は、社会福祉士国家試験に向けて、合宿に行ってきました。

学生みんなで問題と解答を作成し、解説も行いました。問題を作成する際に、これまで学習したことを改めて勉強することができて、試験に向けて大変になる合宿になったと思います。

私はこの合宿で、社会福祉士国家試験に向けての意識を向上させることができました。また、これからは本格的に勉強に励み、無事に国家試験に合格できるようにがんばりたいと思います。



共生社会学科四年 田中 尚行

三日間にわたった国家試験対策の合宿は、私たちが共生社会学科一期生ということ、初めて開催されたものです。

合宿では、朝早くに起き、日が暮れるまで勉強をしました。日が沈んでも、卒業生で福祉分野に携わっている方を招いてお話を聞かせてもらい、身が引き締まりました。そして、キャンプファイヤーでは、私たち一期生同士の絆を深めることができました。

このような素晴らしい合宿が、来年、再来年と続けられるように、必ず社会福祉士の資格を取るぞと、改めて決意した三日間でした。

### ついでにテニスを楽しめます

### 人工芝テニスコートができました

これまで、本学にはクレイコートしかなく、水捌けが悪いため、スポーツ実習で用いたくても、雨が降ると数日は使用できない状態でした。また、最近のテニスの公式試合は人工芝が多いため、テニス部は、試合の前は新発田市五十公野公園等のコート借りて練習していました。

そこで、従来コートが二面あった場所を方向を変えて三面とし、砂入り人工芝を敷き、さらに隣接する建物との境に防球ネットを張りました。これにより、いつでも試合感覚で練習することができるようになりました。今後は、地元の方々から使用願いが出てくるのが予想されますので、貸し出し要項も検討しています。

このテニスコート設置にあたっては後援会がご協力してくださったことを感謝をもって報告いたします。(総務課長 長澤)



できたばかりのコートでさっそくプレー

# 就職

## 一足先に職場を体験 インターンシップに参加して

毎年夏期休暇中の一から二週間にわたって、就職活動を控えた三年生たちは様々な業種で行われるインターンシップ（職場体験）に参加します。インターンシップは、若者の早期離職やニートが増加している社会状況を踏まえ、社会現実に対する認識や大学での学びが現場でどのように適用できるかの理解の向上などを目指しています。また、職業選択を考える契機及び就職活動への動機付けとして実施されています。

今年も、新発田市役所、新潟国際交流協会、キュービット、第四銀行、ホテル新潟、新潟ダイハツモーターズ、新潟グラントホテルの七事業所で、十一名の学生が実習しました。

参加した学生は、社員と接したり普段経験できない裏方としての作業をしたりし、自分自身の就職について考える貴重な機会を得たようです。



ホテルでの接客を体験



松本 藍

夏期休暇中の二週間を利用して、新潟グラントホテルでのインターンシップを経験しました。ホテルの仕事は、華やかで気品があり、とても大人っぽいイメージでしたが、実際は想像以上にハードな仕事で、パントリー（食器室）での仕事もたくさんありました。

最初の四日間はフロントの仕事やベル業務（お客様の送迎や荷物の運搬）を経験しました。お客様に部屋を提供する前の重要なチェックを手伝わせていただきました。後半の四日間は、ホテルのティールラウンジで接客の仕事を経験しました。厨房側の壁には「空間を意識」という貼り紙がしてあり、いつでも優雅でエレガントにすることが大切です。

どの部署のどの仕事も常にお客様を第一に考え、お客様がくつろげる空間を全員が意識していました。一人ひとりが高い意識を持って仕事に励んでいる姿を見て、接客業の心構えと厳しさを肌で実感することができました。

二週間という短い期間でしたが、ホテルでの仕事を実際に体験して、接客業の楽しさを学ぶと共に、自分のことよりもお客様のことを第一に考えることが大切であるということ学び、就職に向けての心構えができました。

## 就職にむけたご家族との連携 三年生保護者との懇談会を開催

「三年生保護者との懇談会」が七月十四日、新潟市内のホテルで開催されました。第一部では、桑原ヒサ子就職委員長と宮川洋就職指導室長が本学の就職指導体制について説明しました。就職活動に早期から積極的に取り組むこと、それに加えて、早期に内定を獲得できなくても諦めずに活動を継続することが、内定獲得につながる旨の説明をしました。また、第二部の懇談会では、保護者の皆さまと軽食をとりながら、日頃の学生生活や今後の就職指導について、ゆつくりと話す機会を持つことができました。教職員とも、よい交流の場を持つことができたと感じております。

この会は、毎年後援会から援助をいただき開催しております。あらためて感謝申し上げます。



保護者の皆さまとの和やかな交流

## Be Together みんなの敬和祭

来る十月二十、二十一日に敬和祭を開催します。今年のテーマは「Be Together」みんなの敬和祭です。このテーマには、誰もが参加したくなる敬和祭に、そして参加した皆さまが楽しい思い出をつくれる敬和祭になるようにとの敬和祭実行委員会の熱い思いを込めました。多くの方々のご参加をお待ちしております。

今年も、テレビでおなじみのお笑いコンビ「いつもここから」をお招きして、お笑いライブをしていただきます。「悲しいとき」「かわいいね」などの人気ネタがみられるかもしれません。また、恒例のミュージック・フェスティバルでの和太鼓の演奏やよさこい踊りなどや、全国大会で二年連続金賞を受賞した東豊小学校の金管バンドの皆さまによるマーチングの実演をお楽しみいただけます。そのほか、本学チアリーダー部によるダンスの披露など、多く



「いつもここから」の2人

### 敬和祭のスケジュール

月日	時間	企画
10月19日(金)	13:30~16:00	敬和ふれあいバラエティ
10月20日(土)	11:00~16:00	屋台・教室展示（両日とも）
	10:00~15:30	骨髄バンクドナー登録会
	10:00~16:00	茶道部茶会
10月21日(日)	12:30~15:30	ミュージック・フェスティバル in KEIWA
	10:30~11:00	東豊小学校金管バンドによるマーチング
	11:30~14:00	F M しばた生中継・収録
	11:00~17:30	学生ライブ
	12:00~14:00	外国語スピーチコンテスト
	13:30~14:00	チアリーダー部によるダンス
	14:00~15:00	いつもここからお笑いライブ&キラキラグッズ抽選会

の方が参加したくなる催しを数多く企画しています。

今年で三回目を迎える外国語スピーチコンテストでは、様々な年層の出場者が、英語、ドイツ語、中国語、ロシア語、日本語などで、日ごろの語学学習の成果を発表します。今回の目玉は、出場者と聴衆が選ぶ「敬和キャップ賞」です。受賞者には、敬和学園大学の「角帽」が贈られます。皆さま、会場にいらして、ぜひ投票ください。

屋台の料理に舌鼓を打ちながら、敬和のアットホームな雰囲気に触れて、楽しい思い出をたくさんつくってください。

末筆となりましたが、敬和祭を支えてくださる地域の方々、教職員の皆さまに厚く御礼申し上げます。（敬和祭実行委員会）

### 「二年生保護者との懇談会」の概要

恒例となりました「二年生保護者の皆さまを対象とする「保護者との懇談会」を本学後援会との共催で開催いたします。

会は二部構成で行い、第一部では保護者の皆さまに本学の教育内容についてのご理解を深めていただきたいと考え、新井明学長と上野恵美子教務部長が「敬和学園大学の教育方針について」と題し、お話し申し上げます。引き続き、質疑応答の時間を設けさせていただきます。保護者の皆さまの質問にお答えいたします。また、続いて行われる第二部は立食の懇談会形式により、保護者の皆さまと常日頃アドヴァイザーとしてお子さまと接している本学教員との間で、学業成績や今後の学生生活などについてお話し合いいただく予定にしております。

本学の特色の一つとして、学生と教員の距離が近いことがあげられます。この機会にぜひとも本学教員とお話しいただき、大学でのお子さまの活動について、ご理解を深めていただきたいと考えております。ご多用のことと存じますが、保護者の皆さまにご来臨賜りますようお願いいたします。

なお、この懇談会の費用は本学後援会にご負担いただいております。（教務委員会）

《日時》 十月十三日(土)

十一時~十三時三〇分

《会場》 敬和学園大学

《お申し込み・お問合せ》

敬和学園大学教務課教務係  
電話 〇二五四・二六一・二五二四

夏休みの楽しい思い出  
敬和キッズ・カレッジを開催しました

本学として、はじめての親子参加型ワークショップ「敬和キッズ・カレッジ」が八月四日、二十五日の両日、まちの駅よろず新発田学研究センターで開催されました。今回のキッズ・カレッジは、「親子写真教室」親子でつくる思い出アルバムをテーマに、写真や映像によるインスタレーション作品で全国的に精力的に活躍している、新発田市在住の吉原悠博さんに講師を担当していただきました。

参加した親子は、吉原さんの家族をテーマにしたデジタル作品を鑑賞した後、持ち寄った自分たちのお気に入りの写真からテーマを考え、親子それぞれの視点から、それぞれの思い出のアルバムを作成する作業を体験しました。(広報委員長 前嶋)



家族だけの"宝物"ができました

クリスマス・チャリティ講演会  
アルフォンソ・デーケン先生がいらっしゃいます



敬和学園大学では、上智大学名誉教授のアルフォンソ・デーケン先生を講師にお招きし、クリスマス・チャリティ講演会「生と死と

ユーモア」を開催いたします。先生は日本における「死生学」の第一人者として全国各地での講演活動を続けられています。死をみつめることは、自分自身にいただいた「いのち」を最後までどう大切に生きぬくか、自らの生き方を絶えず問い直すことであるという考えから、皆さまと一緒に、ユーモア感覚で笑顔と感謝を持ってどう生きるのかを考えていきます。今回の収益金はすべて社会福祉施設に寄付いたします。多くの皆さまからのご参加をお待ちしております。

《日時》 十二月八日(土)  
十四時～十六時  
《会場》 新発田市生涯学習センター  
《参加費》 五〇〇円  
(収益金は社会福祉施設に寄付)  
《お申し込み・お問合せ》  
敬和学園大学総務課  
電話 〇二五四・二六・三六二五

より使いやすく、フレンドリーに  
ホームページが新しくなります

より多くの皆さまに、敬和学園大学のよさを知っていただくために、本学ホームページを新しくする作業をすすめています。今回の作業にあたっては、  
・ 目的の情報に迷わずたどり着ける  
・ 必要な情報が最新の内容で揃っている  
・ 次の情報を探す作業で迷わない  
という三点を大きな目標にしています。今年の一月から作業を開始し、情報の分類の整理や内容の充実をすすめてきています。目に見える部分としては、敬和学園大学の日々の活動の様子を写真とともに伝える「キャンパス日誌」を、一つのコーナーとして新設しました。

情報の整理を終えたホームページの最終的なデザイン変更作業は、外部業者に委託しており、近日中に完成予定です。使いやすくなったページで、本学の最新情報を手に入れてください。(企画・広報係)



だれでも使いやすいホームページに

敬和祭と同時間開催！  
今年度最後のオープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、すでに六月、七月、八月、九月の四回実施し、多くの高校生からご参加いただきました。今年度最後となる十月二十一日(日)のオープンキャンパスでは、好評をいただいている体験授業に加え、間近に迫る入試に役立つ個別相談や模擬面接の場も設けられます。分からないことや知りたいことがあります。分らないことや知りたいたいことがあります。分らないことや知りたいたいことがありましたら、気軽に相談に来てください。

また、同時開催の敬和祭でも、楽しいイベントが多数用意されています。なんと、オープンキャンパス参加の高校生には屋台券のプレゼントもあります！現役の学生による屋台で、おいしい料理と敬和の魅力を同時にお楽しみいただけます。たくさんの方の参加を心からお待ちしています。(入試委員会・入試室)



楽しいオープンキャンパス(6月)

雰囲気を感じて、確かな大学選び



国際文化学科一年  
吉田 百合

受験生の皆さん、志望校は決まりましたか？様々な情報を参考に、じっくりと考えることも必要ですが、その大学に足を運んで雰囲気を感じることは、もっと大切なことです。最終的な志望校は一つでも、さまざまな大学の雰囲気を体験して比較することは、自分の進路をより確かなものにしてくれるはずです。まだ迷っているあなた、敬和学園大学を受験する・しないに関わらず、ぜひオープンキャンパスに参加してください。きっと何かが変わります。

私も一年前に敬和学園大学のオープンキャンパスに参加しました。もちろん他にも何校か大学見学に行きましたが、敬和には他の大学にはない、特別な温かさを感じました。それは、先生方や学生、職員の方々、調理師さんにまでわたりました。この大学にいるすべての人が誰に対してもいつも思いやりがあり、それが大学全体を温かく包んでいるのだと、現在の大学生活の中でますます感じているところです。

敬和学園大学がどんな大学なのか、それは学園生活を送っている私たちと直接触れ合うことで、確かに感じてもらえると思います。私は今、敬和祭の実行委員として活動しています。たくさんの方の屋台やサークルによるイベントのほかに、あのお笑い芸人も呼んじやいます！皆さん、楽しみにしてくださいね。

もうご覧になりましたか？  
新しいテレビCOM完成！

今回のテレビ・コマーシャルは、学生二名が、海外ボランティアや留学を経験したタイを再訪するというコンセプトで制作されました。初めての海外ロケで不安もありましたが、タイの友人たちに助けられ、ステキな場面をたくさん撮影できました。

ボランティア・サークルが貧しい人たちの住宅建築に協力したタイ東北部、パクチオンでは、建築した家に住むご家族や現地のスタッフに再会。翌日は、バンコクに近いナコンパトム、マヒドン大学で、語学留学中に親しくなった大学や寮の友人たちに出会いました。See you again. 別れ際に言ったこの言葉が本当になるなんて！タイの地方と都市、「貧しさ」と「豊かさ」、そしてたくさんの方の笑顔を見た旅でした。

人と人とのつながっていく、小さな敬和の大きなパワーをぜひ感じてください。(英語文化コミュニケーション学科 杉村)



左から武橋仁さん、杉村先生、高橋ゆきさん

キャンパス日誌

- 7月**
- 1日 「日本近現代史」公開授業  
講師 趙博先生(写真)  
テーマ:「帝国」の拡大と崩壊
  - 4日 教授会
  - 5日 新発田市オープン・カレッジ⑤(106名)  
講師 北嶋藤郷 教授 「中野幸次文学にみるいのち」
  - 6日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑩  
説教 新井明 学長 「徴税人のそばで」  
キリスト教音楽受講者によるコーラス(写真)  
講話 山田華代 本学卒業生「ボランティア・ライフ」
  - 7日 加茂農林高校大学見学(保護者35名、教員3名)
  - 10日 前期講義終了
  - 11日 補講日(～17日)
  - 12日 新発田市小学校教頭会大学見学(26名)
  - 13日 新発田中央高校大学講義体験(2年生107名)
  - 14日 3年生保護者との就職懇談会  
於 新潟グランドホテル(51名)
  - 16日 黒龍江東方学院中国語プログラム留学出発  
(1名、～8月17日)
  - 18日 前期末試験(～28日)
  - 21日 JCLPさよならパーティ(写真)
  - 24日 長岡農業高校大学見学(1年生40名)
  - 25日 社会福祉現場実習1 報告会  
十日町総合高校大学見学(1年生80名)  
新発田南高校大学講義体験(1年生220名、～26日)
  - 26日 社会福祉士国家試験受験対策講座(～27日)
  - 27日 高志高校大学見学(1年生40名、2年生6名)
  - 28日 村上市オープン・カレッジ(28名)  
講師 桑原ヒサ子 教授  
「「はてしない物語」—読むという行為を考える」
  - 29日 オープンキャンパス②  
(高校生88名、保護者28名、社会人2名)  
夏期休業(～9月20日)
  - 30日 前期集中講義(～8月3日)  
新潟南高校イングリッシュ・セミナー  
(1年生24名、教員1名)
- 8月**
- 1日 第1回中越沖地震ボランティア(写真、学生・教職員27名)
  - 4日 敬和キッズ・カレッジ「親子写真教室」①



- 6日 就職対策講座(～7日)  
有恒高校大学見学(1年生48名、教員3名)
  - 9日 第2回中越沖地震ボランティア(学生・教職員19名)
  - 13日 夏期特別休業(～15日)
  - 20日 情報技術試験対策A 集中講義(～23日)
  - 25日 敬和キッズ・カレッジ「親子写真教室」②
  - 26日 オープンキャンパス③(高校生41名、保護者15名)  
メルボルン大学附属ホーソン英語学校長期留学出発  
(1名、～12月21日)
  - 30日 職員研修会(写真)
  - 31日 職員研修旅行(～1日)
- 9月**
- 3日 情報技術試験対策B 集中講義(～6日)  
国家試験対策講座3合宿(～5日)  
於 青少年研修センター
  - 4日 教職課程事前指導合宿(～6日)  
於 国立妙高青少年自然の家
  - 5日 前期追試験(～7日)
  - 6日 新発田農業高校大学見学(保護者・教員26名)
  - 7日 再入学試験
  - 12日 中・長期検討委員会研修会  
講師 西井泰彦 日本私立学校振興・共済事業団 私学経営相談センター長  
「敬和学園高等学校・大学の経営分析」  
教授会
  - 14日 第3回中越沖地震ボランティア(学生・教職員8名)
  - 17日 オープンキャンパス④(高校生49名、保護者12名)
  - 18日 前期卒業式(写真)
  - 19日 前期追試験(短期留学参加者向け)  
村上中等教育学校イングリッシュ・セミナー(81名、～20日)
  - 20日 理事会
  - 21日 履修相談日
  - 22日 新津高校イングリッシュ・セミナー(40名、教員3名)
  - 25日 後期講義開始  
後期履修登録期間(～10/1)
  - 28日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑩  
説教 新井明 学長 「鶴岡の想起」  
前期エッセイコンテスト授賞式  
資格取得奨励奨学金授与式
  - 29日 大学オープン・カレッジ①(写真)  
講師 吉田新一 児童文学研究者  
「英米絵本のたのしみ」(～30日)



趣味で観る野球と仕事として携わる野球はやはり違います。それでも私にとっては、大好きな野球がいつも身近にある、本当にこれ以上ないありがたい仕事です。少しでも長く野球に関わっていられるよう、これからも元氣いっぱいがんばります！

皆さんこんにちは。私は今、昨年八月に設立されたばかりの新潟アルビレックス・ベースボール・クラブの広報・試合演出担当として働いています。それまでは新潟市内の冠婚葬祭業の会社で働いていましたが、「大好きな野球が仕事になる！」と転職を決意。スポーツビジネスの世界に飛び込みました。

私は設立翌年の今年一月に入社し、四月の開幕に向けて試合の演出と広報の業務を担当しました。まったくやったことのないホームページの管理や記者会見のセッティング、試合当日の記録配信など初めてのことでたくさんありました。これまでとはまったく異なる業務内容に今シーズンは悪戦苦闘しっぱなしで、それまでの時間の使い方とはとても通用しませんでした。あつという間に月日がたち、気がつけばもうシーズン終了間近になりました。最近ようやく時間にもゆとりが持てるようになってきたところです。

同窓会レリー・エッセイ④  
**大好きな「野球」を仕事にして**  
二〇〇四年度卒業  
**和泉 睦**

本学にお寄せくださった皆さまの支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。



- 一般
- 福田 和子
  - 後藤 喜恵
  - 肥田野 秀司
  - 細見 昌平
  - 市野つくし
  - 泉谷 重義
  - 菅原 春子
  - 鳥居 勇夫
  - カナン建物株式会社 加藤 哲男
  - 早基督教団関東教区教会 婦人会連合
  - オレンジ会
  - 敬和学園大学後援会 2
  - 新井 明 3
- 一九九七組 有澤 未欧  
二〇〇一組 保坂 功  
二〇〇三組 廣川 悠子  
藏品 真澄 和弥

寄付者ご芳名

- 十二月**
- 一日 高校・大学合同クリスマス研修会
  - 八日 クリスマス・チャリティ講演会
  - 十四日 クリスマス・コンサート
  - 二十一日 クリスマス行事
  - 二十三日 冬期休暇(一月四日まで)
- 十一月**
- 一日 三条市オープン・カレッジ③
  - 七日 企業との就職懇談会
  - 八日 社会福祉体験実習
  - 十日 共同研究グループによる  
学術講演会・シンポジウム  
推薦・福園子女編入(二期)入学試験  
社会福祉配属実習(十二月一日まで)
  - 十七日 推薦・福園子女編入(二期)入学試験
  - 十九日 社会福祉配属実習(十二月一日まで)
  - 二十三日 聖籠町オープン・カレッジ②
  - 二十五日 三条市オープン・カレッジ②
  - 二十七日 大学オープン・カレッジ③
  - 二十八日 大学オープン・カレッジ④
  - 三十日 聖籠町オープン・カレッジ③
  - 十九日 三条市オープン・カレッジ①
  - ふれあいバラエティ
  - 敬和祭(二十一日まで)
  - オープンキャンパス⑤
  - 外国語スピーチコンテスト
  - 聖籠町オープン・カレッジ②
  - 十月 教養リフレッシュ・リトリート
  - 五日 共生社会科学公開学術講演会
  - 六日 一・二年生保護者との懇談会
  - 十三日 聖籠町オープン・カレッジ①
  - 十六日 まちカフェ  
(月・木曜、十一月十九日まで)

学事予告